

釧路湿原国立公園指定20周年記念事業

釧路湿原国立公園(1987年指定)の指定20周年を記念し、釧路地域では官民あげて、さまざまな記念イベントがおこなわれました。KIWCも記念事業として、釧路湿原を含む地域の湿地保全とワイルドユースに関するワークショップ・講演会を開催しました。

「釧路湿原と阿寒湖のワイルドユースを考えるワークショップ」の開催

2007年7月27日(金)に、特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合との共催で「釧路湿原と阿寒湖のワイルドユースを考えるワークショップ」を、釧路市生涯学習センターにて開催しました。このワークショップは地域住民を対象に開かれ、釧路地域や阿寒湖で漁業や観光等に携わっている住民のほか、行政・自然系施設の関係者や学生など、約40名が参加しました。

漁業・観光関係者による湿地活用の事例紹介のあと、参加者全員が車座になり、湿地の環境に配慮した産業振興や、二つの湿地の共通点と違いなどについて討論を行いました。会場では、湿地の賢明な利用のためのガイドライン作りや、地域の独自性のアピールなどについて、さまざまな意見が出されました。



講演会／華道実演「湿地再生にいかす伝統芸術」の開催

2007年7月28日(土)、講演会「湿地再生にいかす伝統芸術」を釧路市生涯学習センターで開催しました。自然との調和を重んじる日本の伝統芸術を自然再生事業に活用する事例として、京都・大沢池の景観修復プロジェクトを、京都嵯峨芸術大学・真板昭夫教授にご紹介いただきました。

外来の魚「ソウギョ」の食害により大きな被害を受けた大沢池の生態系と景観を修復するため、真板教授を中心に、さまざまな分野の専門家や地域住民、学生などによるソウギョバースターズが結成され、環境、土木、造園などの多方面にわたる修復計画が進められていること、また、修復計画のゴールを嵯峨御流華道「景色いけ」で表現される「大沢池古来のすがた」に求めたことなどが紹介されました。

会場ではこの修復計画のキーパーソンのひとりである、嵯峨御流華道芸術学院・辻井ミカ副学院長による「景色いけ」の実演もおこなわれ、水盤の上に表現された、美しく、どこか懐かしい「水の風景」が、約40名の参加者を魅了しました。



豪州姉妹湿地公式訪問団への参加

釧路市が釧路湿原国立公園指定20周年記念事業として組織した、オーストラリア姉妹湿地公式訪問団(参加者合計32名)が、2007年11月2日(金)から11月8日(木)にかけて、ニューサウスウェールズ州にある姉妹湿地・ハンター河口湿地を訪問しました。訪問団は釧路市議会議員や地域の商工関係者、国際交流に関心のある市民等で構成されました。KIWCからは構成団体の代表として標茶町教育委員会教育長が参加し、KIWC事務局の湿地専門家も訪問団のサポートとして同行しました。

ラムサール条約登録湿地であるハンター河口湿地では、長年この地で自然再生のプロジェクトを進めてきた「クーラガング湿地再生プロジェクト」のメンバーと一緒に記念の植樹をおこなったほか、地元のバードウォッッチング団体や環境保護ボランティア、ウェットランドセンター関係者など、多くの人々と交流しました。



姉妹湿地訪問リポート

KIWC主幹 新庄久志(釧路市環境政策課湿地保全主幹)

このたび釧路市が主催する「豪州姉妹湿地訪問団」に参加し、ハンターウェットランズセンター、クーラガング湿地再生事業プロジェクト、ポートステイブンス姉妹都市委員会との姉妹湿地交流を行った。ニューカッスル市からポートステイブンス市に位置するハンター河口湿地と釧路湿原、厚岸湖・別寒刃湿原、霧多布湿原は、2004年に「姉妹湿地提携継続」の調印を交わしている。

ハンターウェットランズセンターでは、かつての湿地帯に造成されたラグビー場、酪農地の一部をもとの湿地に戻すため、市民ボランティアを中心とする湿地保全の取り組みが進められている。センター周辺のクーラガング湿地では、水位を調節する堰の設置、湿地林の再生、塩湿地・干潟の修復などを通じて、湿地の再生が試みられている。

訪問団は、地域の人々の様々な取り組みを視察し、かつて優占していたトネリコやレッドウッドなどの植林プログラムに参加した。ポートステイブンス市では、市民活動の拠点になっている「コミュニティ・アートギャラリー」において姉妹都市委員会のメンバーと交流を深め、人々のレクリエーションの場として親しまれている、ネルソン湾に面したトマリー・ワラルー国立公園を視察し、生息するコアラやオオポッサムなどを観察した。また、ポートステイブンス市からニューカッスル市にのびる約33キロメートルの砂丘地を中心に、州の東海岸に点在する国立公園、自然保護区、州立公園をつなぐ「緑のコリドール(野生生物の住む緑の回廊)」として指定されたストックトンビーチ砂丘海洋公園を視察し、ジョン・バートレット姉妹都市委員会委員長をリーダーとする人々の多様な取り組みについて交流を深めた。2008年は、11月に豪州の市民訪問団が釧路を訪れる予定である。



KIWC技術委員会の活動

KIWCでは、湿地の保全と賢明な利用をより効果的に進めるために、3ヵ年ごとに定めるテーマについて、専門家による技術委員会を組織し、調査・研究活動を行っています。2007-2009年度のテーマは「湿地生態系にかかわる外来種に関する研究」です。今日、湿地生態系に影響をあたえる人間活動のひとつとして「外来種」が注目されていることから、2007年度は釧路地域の湿地生態系にかかわる外来種の現状とその課題等について、事例研究を中心とした調査をおこないました。

技術委員長	辻井達一(財團法人北海道環境財団)
委員	河原 淳(霧多布湿原センター)
	澁谷辰生(厚岸水鳥観察館)
	高嶋八千代(北海道教育大学釧路校(非常勤))
	針生 勤(釧路市立博物館)
	蛭田真一(北海道教育大学釧路校)
	若菜 勇(阿寒湖畔エコミュージアムセンターマリモ研究室)
	若山公一(釧路湿原温根内ビジターセンター)

第1回現地検討会:ウチダザリガニの事例研究

2007年7月4日(水)、釧路市内にある春採湖畔にて、2007年度技術委員会現地検討会が行われました。今年度より3年間をかけて実施される「湿地生態系にかかわる外来種に関する研究」の最初の活動として、技術委員・オブザーバーなど関係者13名が、春採湖の外来生物調査の様子を視察しました。

委員のひとりである蛭田真一・北海道教育大学釧路校教授より、春採湖における北米原産のウチダザリガニの生息状況や、湖の環境に与える影響について説明をうけたあと、調査の現場を訪れ、捕獲されたウチダザリガニの回収や測定などのデータ収集の様子を視察しました。

参加者の間では、ウチダザリガニの駆除を進めるための、ボランティアによる駆除活動への参加の方法や、在来種ニホンザリガニとの関係などについて質問や意見がかわされました。



第2回現地検討会:オオハンゴンソウの事例研究

2007年9月1日(土)、厚岸町の子野日(ねのひ)公園にて、2007年度第2回目の技術委員会現地検討会が行われました。「湿地生態系にかかわる外来種」の一例として、近年道内で急速に分布を広げている北米原産のキク科植物・オオハンゴンソウについて、繁茂状況の視察と駆除作業を行いました。

今回の駆除作業は、厚岸町内にある別寒刃湿原やあやめヶ原などの景観・生態系保全上重要な地域へのオオハンゴンソウ侵入の防止策として、今年度より厚岸町が実施する試験的なモニタリング調査の一環であり、町内外の住民ボランティアや関係者など、約70名が参加しました。KIWCからは、技術委員を含む9名が参加し、厚岸町担当者による町内のオオハンゴンソウ繁茂状況の説明を受けたあと、モニタリング対象の群落の抜き取り作業を行いました。

作業後の討議では、外来植物の分布の傾向、釧路地域の湿地における繁茂状況などについて情報交換が行われ、生態系保全上重要な地域への侵入阻止や、普及啓発の重要性などが話題にのぼりました。



「タンチョウ・オオハクチョウ紙飛行機キット」の作成

2004-2006年度の技術委員会活動「湿地の保全と賢明な利用のための広報・教育・普及啓発に関する調査研究」において、委員の澁谷辰生・厚岸水鳥観察館専門員考案の「タンチョウ・オオハクチョウ紙飛行機」を活用した普及啓発活動事例が報告されました。2004-2006年度調査研究報告書の別冊として、この紙飛行機の型紙に、タンチョウ・オオハクチョウに関する解説を加えたキットを2007年8月に発行し、関係機関等に配布しました。

現在、KIWC構成市町村や釧路地域の自然系施設で、タンチョウ・オオハクチョウの解説ツールとして、自然保護関連のイベント等で活用されています。



JICA研修参加者による外来種管理の取り組み報告～ザンビアより～

2006年度のJICA湿地研修に参加したザンビアのグリフィン・K・シャヌングさん(観光・環境・天然資源省)、から、帰国後の活動の報告が届きました。

グリフィンさんは現在、ラムサール条約に登録されているカフカ湿地に設置されたロチンヴァー国立公園における、外来植物ミモザ(*Mimosa pigra*)の駆除プロジェクトにコーディネーターとして取り組んでいます。繁殖力旺盛で棘だらけの藪を作る低木・ミモザは、公園内の生態系だけでなく、牧畜や観光業などの人間生活にとっても近年大きな脅威となっています。地域住民の手による駆除作業と、実験・モニタリング調査からなるプロジェクトの詳細なレポートは、地域が主体となった外来種管理の事例としてKIWCの技術委員会でも紹介され、委員の強い関心を集めました。

